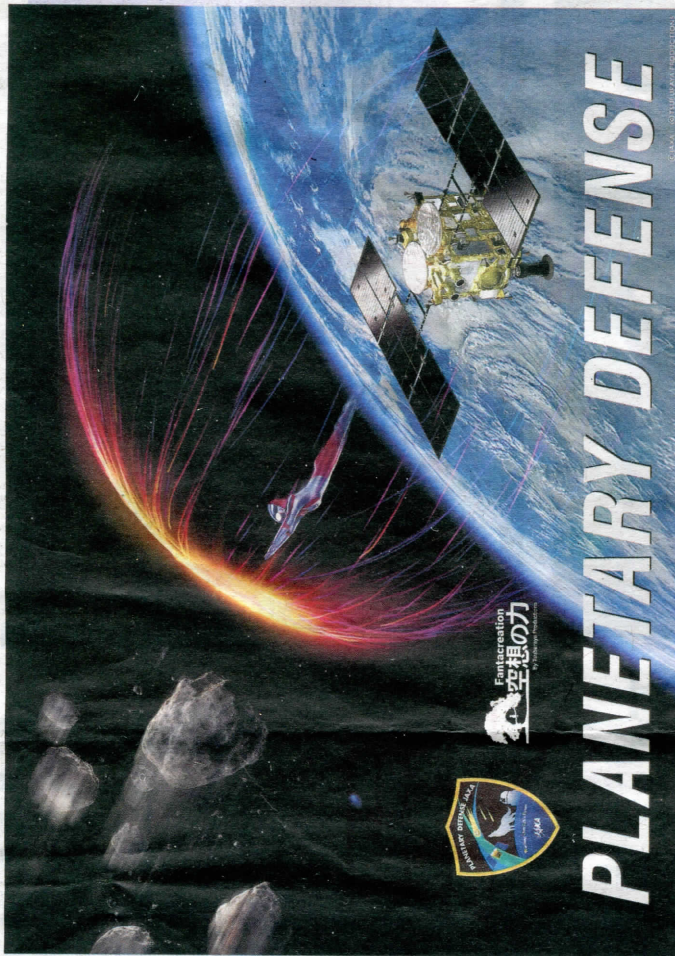




衝突から「地球防衛」



宇宙航空研究開発機構（JAXA）がワルトランマンで知られる円谷（つぶらや）プロダクション（東京）と協力して作製した、小惑星衝突から地球を守るプラネタリー・ディフェンス（地球防衛）活動のポスター（©JAXA、円谷プロ）

今年2月、ひやっとするニュースがありました。直径約60kmの小惑星が、2032年12月に地球に衝突する確率が約3%あるということです。その後の観測で衝突しないことが分かりましたが、実は、地球にぶつかるともしれない小惑星はたくさんあるのです。

被害を防ぐには早期発見が一番。進路を変えたり、衝突を防げなくても、あらかじめ避難したりできます。こうした小惑星の衝突から地球を守る活動を「プラネタリー・ディフェンス（地球防衛）」と呼びます。

4月6日、東京大学で地球防衛に関する講演会が開かれ、宇宙航空研究開発機構（JAXA）やアメリカ航空宇宙局（NASA）の研究者たちが衝突の確率をどう計算するかや、実際

危険な小惑星を早期発見

に見つけた時の国際協力を紹介。22年に行われる小惑星に探査機をぶつけ、道を変える実験についてもしました。

会場には、「地球を守るワルトランマン」の像も登場。講演は大人向けでしたが、小学生も約10人が参加しました。3年の女の子は「ちよつぷりかっけい、分かることまでしておもしろかった」と言っていました。



2013年2月にロシア・チヘリャンスク州上空で見られた火球。衝撃（うけき）波で近くの建物の窓ガラスが割れるなどしてけが人が多数出た。直径20mの小惑星と推定された（NASA提供、©M. A. M. et V. A. I. e. y.）